

令和5年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の促進を目指し、教師の指導力向上を目指した研修等の実施に努める。

1. 現状

改善が進んだ点

- ①「話すこと [やり取り] 」及び「話すこと [発表] 」におけるパフォーマンステストの状況は5年生及び6年生において高い状況である。
(5年97.2% 6年98.2%)
- ②授業における児童の英語による言語活動の場については50%以上達成できている学校が多い。
(5年88.9% 6年89.5%)

未だ改善が必要な点

- ①CEFR B2以上を取得している小学校教員の割合は微増ではあるが、依然低い状況である。(R3年1.5% R4年5.0%)

2. 分析

- ①②指導資料「英語教育の充実に向けて」や「小学校外国語教育指導用映像資料」の作成・周知や研修会の実施など指導力向上に向けた施策等の効果が出ていると考えられる。
- ①外部検定制度の活用等について周知を行っているが、利用する教員は少ないと考えられる。

3. 施策・事業

- ①②①
(1) 専科教員の指導力向上研修の実施
外国語の専科教員の指導力向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて実践研修を実施することを通して、児童の学力向上及び指導体制の充実を図るための研修会を開催している。
- (2) 学びの保障・充実のための学習者用デジタル教科書実証事業
学習者用デジタル教科書を活用した指導事例を収集しHPの公開する等、県内教員の授業改善を図っている。
- (3) 英語教育改善プランのまとめ (R3作成)
活用についてさらに周知を進め、教員の指導力向上を目指している。
・パフォーマンス評価の在り方
・学習指導要領に基づく指導方法の工夫

令和5年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の促進を目指し、県独自に行っている施策の周知徹底を図る。

1. 現状

改善が進んだ点

①CEFR A1相当以上を取得している（若しくは英語力を有する）生徒の割合が4.6%増加している。
 （R3年41.6%→R4年46.2%）
 内訳をみるとCEFR A1相当以上の英語力を有するとみられる生徒の割合は0.5%増にとどまっているのに対し、A1相当以上を取得している生徒は4.1%増になっている。

未だ改善が必要な点

①授業における、英語担当教員の英語の使用状況は3.2%減である。
 （R3年62.6%→R4年59.4%）

②英語担当教員でCEFR B2を取得している割合が1.2%減である。
 （R3年40.2%→R4年39.0%）

2. 分析

①英語教育について重点的に取り組んでいる自治体（外部試験の補助も含む）が増えており、CEFR A1相当以上を取得している生徒が増加している。

①授業の進め方について課題があると考える。

②外部検定制度の活用等について周知を行っているが、利用する教員は少ないと考えられる。

3. 施策・事業

①英語教育改善プランのまとめ（R3作成）の活用についてさらに周知を進め、引き続き教員の指導力向上を目指すことで生徒の英語力向上を図る。

・パフォーマンス評価の在り方
 ・学習指導要領に基づく指導方法の工夫
 県作成教材「Englishつまずき予防ワークシート」及び「はば単」を活用して、生徒のつまずきを予防し、生徒の英語力向上を目指す。

①①令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を分析し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善及び教員の指導力向上に向けて、指導資料を作成し、県内の中学校に周知し、生徒の英語力向上を目指す。

②教員の英語力向上を図るために、外部検定制度の活用等について引き続き周知する。

令和 5 年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

統合的な言語活動等を通して、英語によるコミュニケーションの能力の育成を図るとともに、国際的視野に立ち、主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う

1. 現状

改善が進んだ点

- ①授業における、生徒の英語による言語活動時間の割合が増加。
- ②CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加。

未だ改善が必要な点

- ①「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の設定状況等において、設定及び公表の目標である100%に未到達。達成状況を把握している学科の割合が減少。
- ②調査対象科目において、パフォーマンステストの実施状況が全国平均以下。

2. 分析

- ①授業中のALTの効果的な活用により、生徒の言語活動が活発化。
- ②外部検定試験の資格やスコアを取得していない生徒に対して、様々な記録やテスト等の結果を用いて生徒の英語力を評価することにより、A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加。

- ①評価における、既存の「CAN-DOリスト」の効果的な活用が不十分。各校の現状に応じて定期的な見直し、改訂が必要。
- ②昨年度と比較してパフォーマンステストの実施状況は上昇傾向。一方、学年が進むにつれて実施割合が減少傾向。

3. 施策・事業

- ①グローバル・イングリッシュ・プロジェクトによるALTの全県立高等学校への配置（132人）により、チーム・ティーチング及び4技能が統合的に育成される授業の更なる充実。
- ②県立高等学校国際教育強化検討委員会の設置による、県立高等学校における生徒の英語運用能力向上の具体的方策を含めた国際教育の充実方策の検討。生徒の能力や進路に応じた各種検定試験資格取得への動機付け。パフォーマンステスト等の定期的な実施による、生徒の英語力の確実な把握。

- ①各種教科研修における「指導と評価」に関する研修により、指導の改善及び生徒のモチベーション向上へと繋げるための「CAN-DOリスト」の実践的な活用方法の研究。
- ②ひょうご学力向上研究事業におけるパフォーマンステストの効果的な活用を含む授業改善等に関する研究。年間指導計画におけるパフォーマンステストの位置づけの明確化及び定期的な実施。ALTとの連携及びICTの活用による、テスト実施に係る教員の負担の軽減。